

# 高齢者疑似体験を通して

検査 木村 友維

11月2日に高齢者疑似体験を行いました。2kgの荷重チョッキ、耳栓、関節を曲がりにくくするサポーターを装着し特殊な眼鏡をかけると、全てが高齢者の世界でした。受付で名前を書いたり、お茶を飲んだり、診察室に入って採血結果を見たりなど、いつも患者さんが行っていることを体験しました。自由がきかないため、歩行時には何度もつまずきそうになりバランスがとれませんでした。ベッドの寝起きを体験すると、自然に「よいしょ」と声が出てしまいました。財布の中からお金を出す作業は、一度手のひらにお金をのせて目に近づけて見ないと、いくらなのか見分けが付かず苦勞しました。

今回の高齢者疑似体験を通して、高齢者の方々の大変さや介助してくれる方の優しさなど、新たに気付いたこともありました。掲示物の字の大きさや配色など改善すべき点が多く見つかりました。改善や工夫を行って高齢の方にも優しい医院にして行きたいと思います。



## 赤ちゃん



\*石山友美さん(事務)

12月9日に女の子を出産しました。

名前は「**祐衣**(ゆい)」ちゃんです。  
「やさしい子に育ててほしいです」  
(ママのコメント)

\*菅 明子さん(検査技師)

12月10日に男の子を出産しました。

名前は「**唯月**(いつき)」くんです。  
「健やかにのびのびと育ててね」  
(ママのコメント)

